

中間時代

□「中間時代」の学び全体のアウトライン

第一部 神の歴史計画から見る中間時代

- 第一章 中間時代とは
- 第二章 神の歴史計画

第二部 反キリストの子表

- 第一章 反キリストの子表に関する預言
- 第二章 歴史的成就＝アンティオコス4世・エピファネス
- 第三章 宮きよめの祭り（ハヌカ）

第三部 宮きよめの祭りでのメシアの教え

- 第一章 イエスの神性宣言と光の奇跡との関係（ヨハネ10：22～39）
- 第二章 「光の中を歩む」（Iヨハネ1：5～9）

□第一部の振り返りと本日のテーマ

1. 中間時代

- (1) 旧約聖書の最後の預言者は、マラキ。マラキから新約聖書の福音書でイエスが誕生するまでの時期を、中間時代と呼ぶ。
- (2) 中間時代の信仰者たちが抱いていた希望は、メシア待望である。
 - ① 第一部では、中間時代の直前にどのような出来事があり、どのような預言があったのかを学んだ。
 - ② 前回ホワイトボードに板書したまとめを、本日は、資料としてあらためて添付する。これにより、第一部を簡単に振り返ることとする。
- (3) この時代の信仰者たちにとって、メシアが来ることと「主の日」が来ることは、セットである。
 - ① 主の日とは、神のさばきが地上の諸国諸民族に下り、諸国の王座が覆る時期
 - ② この時期を経て、イスラエル王国は地上に再興され、メシアが王となる。
 - ③ メシアの支配はイスラエルだけにととまらず、全世界である。メシアは、神による平和と正義によって世界を支配する。これが、神の国である。
- (4) 主の日は、7年間である。その後半の3年半の時期は、イスラエル民族にとって「かつてなかったほどの苦難の時」（ダニ12：1）として預言されている。イスラエル民族に激しい攻撃をかける人物が、ダニエル書では「小さな角」「来るべき君主」などと呼ばれ、新約聖書では「不法の人、滅びの子」（IIテサ2：3～12）、「反キリスト」（Iヨハ2：18）、「白馬の騎士」（黙6：2）、「獣」（黙11：7、13：3～18、16：10～16、17：7～18、19：17～20）と呼ばれる人物である。

2. 中間時代における反キリストの予表

- (1) 中間時代においては、この反キリストの予表となる人物が現れた。そのことも、ダニエルによってあらかじめ預言されていた。中間時代においてそのような人物が現れたことで、将来の信者は、主の日において登場する反キリストを明確に認識することができる。
- (2) 第二部は、中間時代に登場した「反キリストの予表となる人物」について扱う。彼は、メディア・ペルシヤの次にエルサレムを支配した国、ギリシヤの王であった。その人物の登場までの歴史を概略記すと次の通り。
- ① 紀元前 332 年 ギリシヤ・マケドニヤの王アレキサンドロスが、エルサレムに平和的に入城（ゼカ 9 : 1~8）
 - ② 紀元前 323 年、アレキサンドロスがバビロンで死去。享年 32 歳。その後、ギリシヤ帝国は、四つに分裂。四つの国の中で、最初にイスラエル地域を支配したのは、南のエジプト（プトレマイオス王朝）
 - ③ 紀元前 198 年に北のシリヤ（セレウコス王朝）が、エジプトを破って、イスラエル地域の支配者となった。
 - ④ このシリヤから、ひとりの王が、反キリストの予表として登場する。アンティオコス 4 世・エピファネス（在位 175-164 B.C.）
- (3) ダニエル書での預言箇所・・・参考のため、反キリストに関する箇所も付記する。予表となる中心ポイントは、神殿に自分の偶像を置くこと（→マタ 24 : 15）

ダニエル書の章	反キリストの予表	反キリスト本人
7 章		8、11、20~26 節「小さな角」
8 章	9~14 節「小さな角」	23~25 節「横柄で狡猾な王」
9 章		26 節「来るべき君主」、27 節
11 章	21~35 節「卑劣な者」	36~45 節「王」
12 章		1、7、11 節 イスラエルにとって「苦難の時」、その日数

第二部 反キリストの予表

第一章 反キリストの予表に関する預言

□反キリストの予表に関する預言① ダニエル 8 : 9~14 の「小さな角」

1. 小さな角が登場する（ダニエル 8 : 9）

- (1) そのうちの 1 本の角から、また 1 本の小さな角が芽を出した
- ① 8 節の 4 本の角は、ギリシヤの 4 つの国（4 : 8）
 - ② そのうちの一つの国から、小さな角（以下、「彼」）が登場する

(2) それは非常に大きくなっていき、南へ、そして東へ、そして美しい国へと向かって行った

- ① 南とは、エジプト。彼はまずエジプトに向かい、これを打破する
- ② 東とは、メソポタミア方面
- ③ 美しい国とは、イスラエル（エゼ 20 : 6、ダニ 11 : 16、41）

2. その角は、天の軍勢に対して戦う（ダニエル 8 : 10）

(1) 「それは大きくなって、**天の軍勢**に達した」

① 「軍勢」と訳されているヘブル語（サバ）について

- ある種の人々の集団、特に規律正しく戦いのために組織された集団
- 聖書では、天界の天使たちを指したり、星々（創 2 : 1、詩 33 : 6、イザ 40 : 26）を指しても用いられる。
- 神の名としても用いられ、ヤハウエ・セバオス、これは複数形なので「軍勢の主」ではなく、「万軍の主」と訳される（Iサム 1 : 3）

② 「天の軍勢」

- 聖書では、通常は、天体、すなわち星々を指す（申 4 : 19、17 : 3）か、または天使たちを指す。
- 天使たちを指す場合は、聖なる天使たちだけでなく、聖くない天使たち（悪霊）を指すこともある（I列 22 : 19~21、II歴 18 : 18、詩 148 : 2）

③ 聖書の他の箇所には「ヤハウエの軍勢」という表現もある。

- これは、天使たちの集団を指すことが多い。
- ただし、出 12 : 41 では「イスラエル民族」を指す。「主の全集団」と訳されているが、原文は「ヤハウエの軍勢」である。この箇所以外にも、次のようにイスラエル民族について使っている箇所がある。
 - 創 15 : 5 **星**を数えることができるなら、・・・あなたの子孫はこのようになる
 - 創 22 : 17 あなたの子孫を、空の**星**、海辺の砂のように数多く・・・
 - 出 7 : 4 わたしの**集団**、わたしの民イスラエル人をエジプトから
 - 出 12 : 17 わたしがあなたがたの**集団**をエジプトの地から連れ出す
 - 民 33 : 1 その**軍団**ごとに、エジプトの地から出て来たイスラエル人

④ 天には、イスラエルを守る天使たちがいる（ダニ 12 : 1）

⑤ 結論：小さな角と呼ばれる人物は、天にいるイスラエルの守護天使たちに敵対しつつ、地上のイスラエル民族（ユダヤ人たち）を迫害するであろう。

(2) 「星の軍勢のうちの幾つかを地に落として、これを踏みにじった」

- ① 「星の軍勢」とはユダヤ人たちを指す。
- ② 彼は、ユダヤ人たちと戦い、勝利する。
- ③ その歴史的記録が、マカベア書である。マカベア書は、聖書協会共同訳では「旧約聖書続編」として収録されているが、本来は、神の靈感を受けた書物

である聖典ではない。いわゆる外典である。ただし、偽典ではないので、歴史的資料としての信頼性は認められる。

3. 「そむきの罪」の預言（ダニエル 8：11～12）

(1) のし上がった

- ① 自分を何者かであるかのように誇示する
- ② 彼の名、エピファネスとは、「神を体現する者」の意味

(2) 軍勢の長にまで

- ① 軍勢の長、すなわちユダヤ人たちの長とは、大祭司。
- ② 彼は大祭司を自分の意に沿う者に替える。大祭司は終身職、交替する場合は身に欠陥を負ったときのみ（レビ 21：16～24）とする律法は無視される。

(3) それによって常供のささげ物は取り上げられ

- ① 彼は律法が命じる祭儀をやめさせる
- ② I マカ 1：44～45

(4) その聖所の基はくつがえされる

- ① 「基をくつがえす」とは、神殿を汚すことを示唆する
- ② 神殿は破壊されたわけではないが、汚されたために、「聖所は荒野のように荒れ果て」（I マカ 1：39）と表現された。
- ③ I マカ 1：21～59、II マカ 6：1～5

(5) 軍勢は渡され

- ① 彼はユダヤ人たちに武力を行使し、弾圧の過程で多くのユダヤ人たちが殺される
- ② I マカ 1：24～32

(6) 常供のささげ物に代えて

- ① （軍勢が渡されるときに）常供のささげ物もいっしょに
- ② 聖書的な礼拝は停止する
- ③ 彼は神殿域において異教の偶像礼拝を行わせた（I マカ 1：41～43）

(7) そむきの罪がささげられた

- ① （軍勢が渡されるときに、常供のささげ物もいっしょに渡される、それは何を通してかという）そむきを通して
- ② 「そむき」は、アンティオコス側とユダヤ人側の双方に起きた
 - アンティオコスは、神の律法を冒瀆して異教の偶像礼拝を行わせた
 - ユダヤ人の側にも、ヘレニスト派の人々がいて、彼らは聖書的ユダヤ教を廃し、ギリシャの文化と宗教を導入しようとした（I マカ 1：11～15、43）
 - ヘレニズム：（ヘブライズムと対比し）ギリシャの人間中心的精神。限定としては、アレクサンドロス大王から 300 年間くらいの、東方文化と接触統合した時期のギリシャ文化を指す。（岩波・国語辞典）

- (8) その角は真理を地に投げ捨てた
- ① 「真理」には原文では定冠詞がついている→「その真理を地に投げ捨てた」
「その真理」とは、特にモーセの律法
 - ② アンティオコスがモーセの律法を読むことも行うことも禁止した（I マカ 1：44～49、56～58）
- (9) ほしいままにふるまって
- ① 彼は自分の思うようにふるまう
 - ② アンティオコスは頑固な王、自分の意志を通し神の命令には全く無関心
- (10) それを成し遂げた
- ① 「成し遂げる」、ヘブル語動詞の意味は「あることを推し進めて成功する」
 - ② アンティオコスは、ユダヤ教とユダヤ人をギリシヤ化することを目指して事を進めた

4. 小さな角の活動期間について（ダニエル 8：13～14）

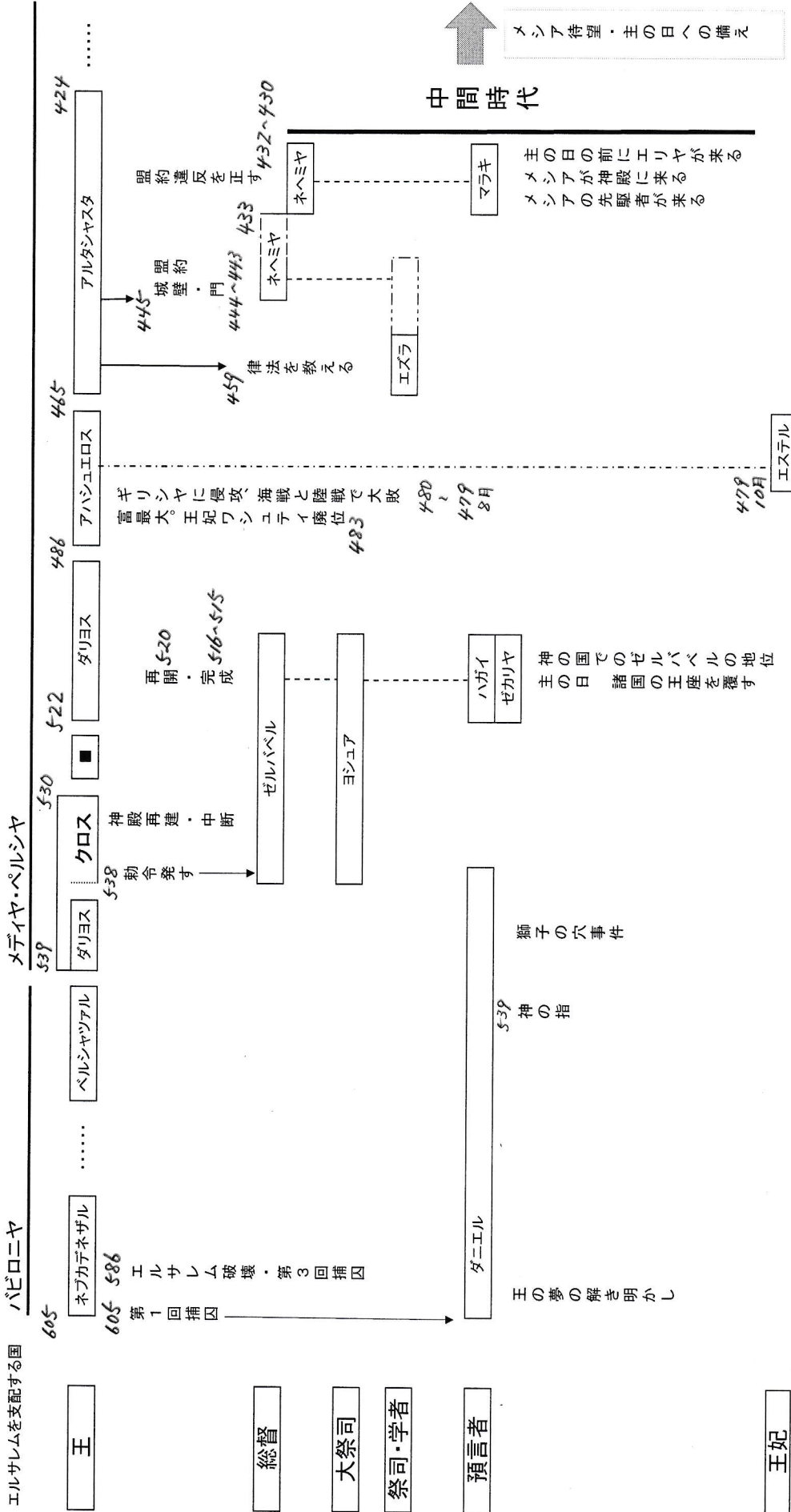
- (1) 13 節 活動期間を問う
 - (2) 14 節 その答え 2300 の夕（と）朝 ヘブル的な表現 夕・朝 = 一日 2300 日
- ① ユダヤ人への弾圧が始まったのは、紀元前 175 年。大祭司オニアスが替えられたとき（II マカ 4：7）
 - ② オニアスが大祭司から降ろされたあと暗殺されたのは、紀元前 171 年（II マカ 4：34）
 - このときアンティオコスは暗殺者を処刑した。以後、ユダヤ人内部の抗争が激しくなって、アンティオコスの武力介入を招いた（II マカ 4～5 章）
 - ③ 神殿にギリシヤ神話の神ゼウスの像が立てられたのは、紀元前 168 年、キスレウの月 25 日。この像は 11：31 では「荒らす忌むべきもの」と呼ばれる。このゼウス像の顔は、アンティオコスの顔に似せてあった。
 - 「忌むべきもの」シックコート 汚れたもの、特に偶像
 - ④ 像が立てられてからちょうど 3 年後、紀元前 165 年のキスレウの月の 25 日、神殿が清められた。
 - ⑤ ②が紀元前 171 年 9 月 9 日であったとすると、②から④が 2300 日である。
 - ウッドやシャワーズという神学者たちは、歴史調査をして、「紀元前 171 年 9 月 6 日」と推定している。

2300 日

□参考 I マカバイ記 1:41~63 (聖書協会共同訳)

- 41 王は王国全土に、すべての人々が一つの民族となるように、そして、
- 42 おのおの自分の慣習を捨てるようにと、書き送った。そこで異邦人たちは皆、王の命令に従った。
- 43 また、イスラエルの多くの者たちが、進んで王の崇敬を受け入れ、偶像にいけにえを献げ、安息日を汚した。
- 44 さらに王は使者を立て、エルサレムならびにユダの町々に文書を送った。その内容は、この地に無縁な者たちの慣習に従い、
- 45 聖所での焼き尽くす献げ物、いけにえ、注ぎの供え物をやめ、安息日や祝祭日を冒瀆し、
- 46 聖所と聖なる人々を汚し、
- 47 異教の祭壇、神殿、偶像の宮を造り、豚や不浄な動物をいけにえとして献げ、
- 48 息子たちは無割礼のままにしておき、あらゆる不浄や瀆聖で身を汚し、自らを忌むべきものとするのであった。
- 49 これは、そのようにして人々が律法を忘れ、掟をすべて変えてしまうようにするという目的によるものであった。
- 50 そして王のこの言葉に従わない者は死刑に処せられることになった。
- 51 王はこのような言葉で王国全土に書き送り、民の監督官を任命し、ユダの町々に対し町ごとにいけにえを献じることを命じた。
- 52 民の多くの者、律法を捨てる者は皆、彼らに加わり、この地で悪を行った。
- 53 こうしてイスラエルを、隠れ場へ、あらゆる逃れの場へと追い込んだ。
- 54 第145年、キスレウの月の十五日には、王は祭壇の上に「荒廃をもたらす憎むべきもの」を建てた。人々は周囲のユダの町々に異教の祭壇を築き、
- 55 家々の戸口や大路で香をたき、
- 56 律法の巻物を見つけてはこれを引き裂いて火にくべた。
- 57 契約の書を隠していることが発覚した者、律法に適った生活をしている者は、王の裁きにより処刑された。
- 58 悪人たちは毎月、町々でイスラエル人を見つけては彼らに暴行を加えた。
- 59 そして月の二十五日には主の祭壇上にしつらえた異教の祭壇でいけにえを献じた。
- 60 また、子どもに割礼を受けさせた母親を王の命令で殺し、
- 61 その乳飲み子を母親の首につるし、母親の家の者たちや割礼を施した者たちをも殺した。
- 62 だがイスラエル人の多くはそれにも屈せず、断固として不浄のものを口にしなかった。
- 63 彼らは、食物によって身を汚して聖なる契約に背くよりは、死を選んで命を落としていった。

中間時代の直前期



■: カンピュセス 在位8年、エジプト征服後、帰国途中で死ぬ